

# 『日本石器時代提要』のこと

中谷宇吉郎

青空文庫



弟<sup>じゅうじろう</sup>治宇二郎が書いた本というのは、表題の『日本石器時代提要』であって、菊<sup>きく</sup>判<sup>はん</sup>三百ページくらいの堂々たる体裁であった。評判も大分良かったらしく、『朝日新聞』の書評でも「年齢わずか三十歳の著者が」と、大いに褒めてあった。しかし本当は、当時二十七歳くらいだったので、ひどく早熟な方であった。

語学には、妙な才能をもっていて、来た時は仏<sup>フランス</sup>蘭西語はボン・ジュールくらいしか知らなかったのに、二カ月もしたら、もうコレジ・ド・フランスで、三十分の講演をして来たなどといって、澄<sup>ちやう</sup>ま<sup>こう</sup>していた。

日本を出る前に、注<sup>ちゆう</sup>口<sup>こう</sup>土<sup>ど</sup>器<sup>ぎ</sup>の形と紋<sup>もん</sup>様<sup>よう</sup>の分類をして、その型式を地図の上に描き現わして、文化（カルチュア）の中心を求めるという研究をした。その結果を英文で書いて、方々に送っておいたそうである。来て間もない頃、コレジ・ド・フランスで社会学のモリス教授の講義を冷やかしていたら「文化中心を求める中<sup>なか</sup>谷<sup>や</sup>の図式方法」というのが出て来て、びっくりしたそうである。講義がすんでから「それは私です」と申し出たら、モリス教授もたいへん喜んで、それから学会などにも始終顔が出せるようになった。

こういう具合に、弟の在仏生活は、大分楽しく、また仕事の方でも能率を大いにあげた。

しかし勉強が過ぎて、胸を悪くした。スイスの療養所で大分静養もしたが、思わしくなく、帰って九州の由布院ゆふいんで闘病生活四年、遂に亡くなった。

それから五年ばかり経たつて、日華事変の最中、京都の出版社が、京大の梅原末治教授うめはらすえじのところへ、考古学の本を一冊書いてもらいたいと頼みに行ったことがある。そしたら梅原教授は「考古学の本では、以前に出た中谷君の『提要』が非常に良い本であつたが、今は絶版になつている。あれを補足して出した方がよい。私が校訂してあげる」と言われたのである。そして同教室の小林行雄こばやしゆきお、岡崎敬おかざきたかし両君の熱心な助力を得て、初版刊行後に得られた新資料及び斯学しがくの進歩を採り入れて『校訂日本石器時代提要』は、菊判五百五十ページに及ぶ大著となつて、再び世に出た。

原著の姿をそのままに残して、それに新しい資料を加えて、増補校訂をするということは、非常に労が多くて、しかも世間的には、功の現われない仕事である。普通は門下生が恩師の遺著について行うことが、稀まれにあるという程度の話である。

梅原教授のような当代一流の学者が、その門下生でもない、他の大学の年若い一助手の遺著に対して、こういう厚意を示されたことは、空前のことであり、また絶後になるかもしれない。早くは死んだが、弟は仕合せな男であつた。

（昭和三十年七月十九日）



# 青空文庫情報

底本：「中谷宇吉郎随筆集」岩波文庫、岩波書店

1988（昭和63）年9月16日第1刷発行

2011（平成23）年1月6日第26刷発行

底本の親本：「百日物語」文藝春秋新社

1956（昭和31）年

初出：「西日本新聞」

1955（昭和30）年7月19日

入力：門田裕志

校正：川山隆

2013年1月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 『日本石器時代提要』のこと

中谷宇吉郎

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>